

香川県農業試験場病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察注意報第2号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和6年度 病害虫発生予察注意報 第2号

1. 病害虫名 : **斑点米カメムシ類**
2. 対象作物 : **水稲（短期栽培、普通期栽培）**
3. 発生が予想される地域 : **県下全域**
4. 発生程度 : **多**
5. 注意報発表の根拠
  - 1) 7月下旬の早・短期水稲での発生調査（調査対象種：大型カメムシのホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）では、畦畔における発生圃場率は83.3%（平成：42.8%）、虫数は3.1頭（平成：3.3頭）と多かった（第1表）。
  - 2) 7月上旬の普通期水稲での発生調査（調査対象種：大型カメムシのホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）では、畦畔における発生圃場率は50.0%（平成：28.7%）、虫数は2.3頭（平成：2.0頭）とやや多かった（第2表）。
  - 3) 綾歌郡綾川町の予察灯における7月の誘殺数は、大型カメムシ（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ）が345頭（平成：132.3頭）と2.6倍多く（第1図）、小型カメムシ（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）が263頭（平成：128.7頭）と2.0倍多かった（第2図）。
  - 4) 向こう1か月の気象は、気温が高く、降水量がほぼ平成並の予報であり、今後も短期、普通期水稲の本田への侵入が懸念される。

第1表 早・短期水稲の畦畔での斑点米カメムシ類の発生状況<sup>1)</sup>

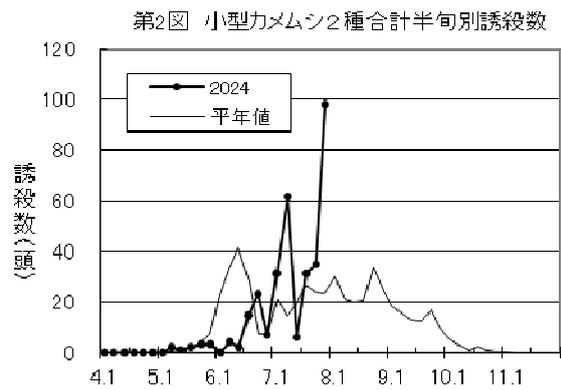
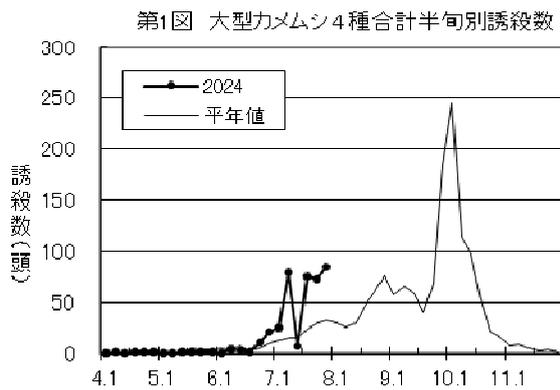
年次	7月下旬	
	発生圃場率(%)	虫数 <sup>2)</sup>
2014年	38.9	1.1
2015年	44.4	4.4
2016年	55.6	4.2
2017年	50.0	3.6
2018年	33.3	5.7
2019年	50.0	4.9
2020年	44.4	1.9
2021年	33.3	2.2
2022年	33.3	1.2
2023年	44.4	3.3
平成	42.8	3.3
2024年	83.3	3.1

- 1)18圃場において圃場ごとに畦畔を20回、捕虫網ですくい取って調査。
- 2)発生圃場における平均虫数
- 3)カスミカメ類は含めていない

第2表 普通期水稲の畦畔での斑点米カメムシ類の発生状況<sup>1)</sup>

年次	7月上旬	
	発生圃場率(%)	虫数 <sup>2)</sup>
2014年	31.8	1.6
2015年	18.2	4.0
2016年	36.4	1.8
2017年	45.5	1.9
2018年	31.8	1.1
2019年	18.2	1.0
2020年	18.2	1.3
2021年	13.6	1.0
2022年	36.4	4.8
2023年	36.4	1.9
平成	28.7	2.0
2024年	50.0	2.3

- 1)22圃場において圃場ごとに畦畔を20回、捕虫網ですくい取って調査。
- 2)発生圃場における平均虫数
- 3)カスミカメ類は含めていない



## 6. 防除実施上の留意点

- 1) 畦畔等圃場周辺の除草を行い、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、出穂直前に行うと、カメムシ類の圃場への移動をうながすことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、出穂7～10日前までに行う。特に、カスミカメ類はイネ科雑草の穂を餌として増殖する傾向が顕著なため、畦畔や周辺雑草地の草刈りが有効である。
- 2) 薬剤防除の時期は、出穂期～穂揃期に1回目の防除を行い、発生が多い場合はその7～10日後に再度防除する。また、穂揃期以降にミナミアオカメムシが水稻で繁殖している場合は、粒剤よりも速効的で効果が高いとされる液剤や粉剤の使用が望ましい。

なお、イネカメムシは出穂直後の穂を加害することにより不稔被害を引き起こすため、穂揃期以降ではなく出穂期の防除が重要である。

- 3) 防除効果を高めるために地域一斉防除に努めるが、適用作物や収穫前日数などの使用基準を遵守する（第3表）。なお、休耕田に使用できる薬剤もある（第4表）。



クモヘリカメムシ（成虫）



ホソハリカメムシ（成虫）



ミナミアオカメムシ（成虫）



シロホシカメムシ（成虫）



アカスジカスミカメ（成虫）



アカヒゲホソミドリカスミカメ（成虫）

第3表 水稻の斑点米カメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準  
(薬剤名は香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード <sup>1)</sup>
スミチオン乳剤	1,000倍	21／2	MEP (フェントロチオン)	1B
トレボン乳剤	2,000倍	14／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	14／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4kg	7／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
ダントツ粒剤	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツフロアブル	5,000倍	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツ粉剤DL	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4kg	7／3	クロチアニジン	4A
アルバリン粒剤	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル粒剤	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル液剤10	1,000倍	7／3	ジノテフラン	4A
アルバリン粉剤DL	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル粉剤DL	3kg	7／3	ジノテフラン	4A
スタークル豆つぶ	250g	7／3	ジノテフラン	4A
エクシードフロアブル	2000倍	7／3	スルホキサフロム	4C
エクシード粉剤DL	3kg	7／3	スルホキサフロム	4C
エミリアフロアブル	1000倍	7／2	フルビリミン	4F
キラップ粒剤	3kg	14／2	エチ <sup>®</sup> ロール	2B
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14／2	エチ <sup>®</sup> ロール	2B
キラップ粉剤DL	3～4kg	14／2	エチ <sup>®</sup> ロール	2B

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。  
※キラップ粒剤とそれを含む混合剤を使用する場合は、出穂10日前～出穂期頃に使用する。

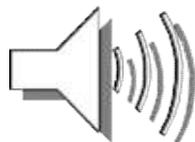
第4表 休耕田のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準<sup>1)</sup>  
(薬剤名は香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数	有効成分	IRACコード <sup>2)</sup>
スミチオン乳剤	1,000倍	—／4	MEP (フェントロチオン)	1B
キラップフロアブル	2000倍	—／2	エチ <sup>®</sup> ロール	2B
キラップ粉剤DL	4kg	—／2	エチ <sup>®</sup> ロール	2B
トレボン乳剤	2,000倍	—／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
トレボンEW	1,000倍	—／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
トレボン粉剤DL	3～4kg	—／3	イトフェン <sup>®</sup> ロックス	3A
ダントツ水溶剤	4,000倍	—／4	クロチアニジン	4A
ダントツH粉剤DL	3～4kg	—／4	クロチアニジン	4A

1) ヨシ、オギ、スキ、セイカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田。

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。  
※キラップ粒剤を使用する場合は、出穂10日前～出穂期頃に使用する。

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう**



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。  
農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に  
使用できているか、チェックしましょう。

病害虫防除所 インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

